

会

派

の

意

見



文責は各会派にあります

輝 (かがやき)

令和4年12月定例会では、約7億円を追加し歳入歳出を約380億円とする一般会計補正予算が可決されました。また、無作為抽出によって選ばれた市民が本市の課題を話し合う【自分ごと化会議】から提出された意見書は、【条例検討委員会】を経て、【長岡京市助け合いとつながりのまちづくり条例(案)】として提出され全会一致で可決されました。この条例に込められた願いである、多様な市民と市が一緒になって考え、

市民の皆さまが助け合いの担い手となるよう会派輝も大いに期待しています。

また、それぞれの立場から市政に対して提言をする一般質問では進藤裕之から市税の徴収について。大伴壘から地域公共交通、特別支援教育、不登校支援について。宮小路康文から病児・病後児保育、学校における共助、障がい者基本条例における合理的配慮について。富田達也から産後ケア、保育所入所、室内遊戯場について質問しました。会派輝は市民が更に活躍し輝くま

ちを目指し邁進して参ります。

公明党

令和四年十二月定例会において、三十一件の議案が提出され慎重に審査を行い全ての議案が承認・可決されました。十二月定例会では令和六年度の供用開始に向けての新竹寿苑に関して、サークル活動の継続と新施設での新たなサークルの立ち上げの支援をどのように図っていくかの確認と本市の健康づくり事業に関して成人健康検査やがん検査の受診体制の更なる充実を図ることを要望しました。子育て支援として全ての

妊婦・子育て家庭に寄り添った伴走型相談支援と経済的負担を軽減するための更なる充実した取り組みを要望しました。来年四月から定期接種される九価HPVワクチンの周知の在り方を確認しました。带状疱疹ワクチンへの助成並びに定期接種化を求める意見書、知的障がい者・知的障がい行政の国の対応拡充を求める意見書が承認・可決されました。公明党は現場の声、生活者目線を大切にして国・府との連携を生かし住みたい住み続けたい長岡京市の構築に向けて引き続き全力で取り組んで参ります。 福島和人・石井啓子

会派とは、同じ意見や考えを持つ議員が集まってつくるグループのことです。ここでは12月定例会で審議された内容について、各会派の意見を紹介します。



平成西山クラブ

中小路市政の3期目がスタートしました。2月6日から新庁舎（1期）の供用も始まっています。議会におきましては『議会改革特別委員会』での議論も成熟し、少しずつ改革は進んでいます。地方議会は本来、政策立案・行政監視を行う重要な役割を担っていますが、形骸化を指摘するご意見もあり、改革もまだ十分とは言えない状態です。

しかし、何が何でも反対という姿勢よりも、市民の受益と負担のバランスの中で、「住み慣れた地域で、誰もが安心して暮らせる持続可能な政策を決めていくこと」時間はかかってもこの仕組みを整えることが重要なのです。

私たちは今後とも、さらに議論を重ねながら、市民の皆さまに信頼される議会の在り方を模索してまいります。

今一度原点に立ち返り、二元代表制の意味を鑑み、首長と議会が適度な緊張感をもって、健全な政策論争を行うところが大切であると考えています。

上村真造・白石多津子・田村直義

平成自民クラブ

新型コロナウイルス対策商工業事業者支援電子クーポン補助、長岡第九小給食室等整備工事請負契約変更、「長岡京市助け合いとつながりのまちづくり条例」の制定等について審査し、賛成しました。

電子クーポン補助については、市内事業者を下支えし、経済活性化に寄与したと評価しました。助け合いとつながりのまちづくり条例制定は、地域のつながりを深め共助を基盤に協力・連携することで、皆が安心安

全で住みよい、そしていきいきと暮らせるまちづくりを推進します。

消防団活動への支援について質し、団員定数の確保や技術継承を図るとの答弁を得ました。また、農業への関心を高める施策に関して質し、農家の顔が見える販売、野菜・果物の収穫体験、地元野菜を使った料理講習会の推進、市民が身近に農ある暮らしの大切さを実感し、都市と農業の共生社会を次世代へ継承したいとの答弁を得ました。

今後市民の豊かな暮らしのため未来に向けたまちづくりを進めます。八木浩・中小路貴司・三木常照

日本共産党

コロナ第8波と物価高騰への対策を
市民も事業所も物価高に苦しんでいます。公立保育所4か所の光熱水費増に680万円の補正予算が組まれた一方、民間保育園へは「府の支援がある」と市が答弁。しかし府の支援は、規模に応じて2万円または6万円しかありません。民営化や民間委託が公的責任の放棄でないのなら、公立と同様の支援が必要です。介護・福祉・医療等の事業所の実態把握と必要な支援を求めました。

農業・商工業の事業所では物価高騰に加え、コロナ関連融資の返済もかさかかってきます。LINEクーポンは予算を大幅に増額しましたが、その恩恵が及ばない業種もあり、実態把握と必要な支援を求めました。

第8波で、年末年始の医療体制や、市民が検査を受けやすく医療機関の負荷軽減にもなりうる公的検査体制の確立を求めましたが、市長は「府が対応する」と答弁。市としても医療機関を支える視点が必要です。

「介護保険法改定にあたり負担増・給付抑制は行わないよう求める意見書」を提案し、可決されました。

ふえいすぶっく 長岡京市議会公式 Facebook



Facebookページ「京都府長岡京市議会」では、さまざまな議会の情報を発信し、適宜更新しております。

Facebookのアカウントをお持ちの方は、今後ともどんどん「いいね!」「フォロー」「シェア」をお願いします。

Facebookのアカウントを持っていなくても閲覧できるため、ぜひ一度、ご覧ください!

☎ QRコードからチェック!

